

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号（概要版）	令和7年7月18日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
水稻	いもち病 (葉いもち)	発生量: 平年並	いもち病 (穂いもち)	発生時期: やや早い 発生量: 平年並
	紋枯病	発生量: 平年並	稲こうじ病	発生量: 平年並
	斑点米カメムシ類	発生時期: やや早い 発生量: 多	—	—
トマト	すすかび病	発生量: 平年並	葉かび病	発生量: 平年並
	アザミウマ類	発生量: 多	コナジラミ類	発生量: 平年並
なす	うどんこ病	発生量: やや少	アザミウマ類	発生量: 多
	コナジラミ類	発生量: やや少	ハダニ類	発生量: 平年並
ねぎ	さび病	発生量: 少	べと病	発生量: 少
	黒斑病・葉枯病	発生量: 平年並	シロイチモジヨトウ	発生量: 多
	ネギアザミウマ	発生量: 多	ネギハモグリバエ	発生量: 平年並
きく(露地)	白さび病	発生量: 少	アザミウマ類	発生量: 多
	アブラムシ類	発生量: 平年並	カスミカメムシ類	発生量: やや少
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: やや多	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並

発生予報第6号の他に以下の情報を発行しています。

・注意報 第3号 水稻「斑点米カメムシ類」(令和7年7月18日発行)

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第7号の発行日は8月1日(金)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム



令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号 ー水稻ー	令和7年7月 18 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月9日～11、14 日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月 17 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
いもち病 (葉いもち)	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年より高かった。(/ +)
- (2) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量は平年並か少なく(/ - ～ ±)、日照時間は平年より多いと予報されている。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
いもち病 (穂いもち)	やや早い	平年並

予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は7月 29 日頃と予測され、平年より3日早い(宮城県米づくり推進本部7月 16 日発表)と予想されている。(- /)
- (2) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における葉いもちの発病株率及び株当たり病斑数は平年より低く推移している。(/ -)
- (3) 巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率及び発病株率は平年より高かった。(/ +)
- (4) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量は平年並か少なく(/ - ～ ±)、日照時間は平年より多いと予報されている。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。(/ +)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、発病株率は平年よりやや低い。(/ -)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並か少ないと予報されている。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
稻こうじ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。(/ +)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並か少ないと予報されている。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
斑点米カメムシ類	やや早い	多

予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は7月 29 日頃と予測され、平年より3日早い(宮城県米づくり推進本部7月 16 日発表)と予想されている。(- /)

- (2) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第3半旬であり、平年よりやや早かった。また、第2世代成虫発生盛期は、平年(8月第4半旬)よりやや早い8月第3半旬と予測される。(－/)
- (3) 巡回調査の結果、本田及び周辺畦畔におけるアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシやホソハリカメムシの発生地点率は平年より高く、すくいとり虫数は平年より多かった。(/＋)
- なお、クモヘリカメムシは県南部や県北沿岸部ですくい取り虫数が多かった。
- (4) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(－/＋)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(＋):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量・・・(＋):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>
- ・出穂期予測を参考に適期防除を実施する。今後の天候が平年並であると仮定すると、県内中生品種の出穂期は7月 29 日頃と予測されている。

表 地帯区別の生育ステージの予測(令和7年7月 10 日現在)

地帯区分	田植盛期	出穂期
北部平坦	5/12	7/29
南部平坦	5/13	7/28
仙台湾沿岸	5/11	7/28
西部丘陵	5/13	7/31
三陸沿岸	5/14	8/2
山間高冷	5/16	8/6

注) 出穂期は、「宮城県水稻発育予測プログラム(暫定版)」(東北農研センター)を用いた予測日である。
 <予測条件> ①日別平均気温:各アメダス地点のメッシュ農業気象データ(7月10日までは実況値、その後26日間は予報値を使用)、②移植時期:各地帯区分の田植盛期、③移植時葉数:県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均2.9枚。④対象品種:「ひとめぼれ」。

(2) 葉いもち・穂いもち

- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・「金のいぶき」は穂いもちの抵抗性がやや弱いため、いもち病防除を3回実施する。
- ・直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・紋枯病の要防除水準は、出穂直前(穂ばらみ期)の発病株率で判断する。被害の許容水準を収量の減収率で5%以上とする場合、「ひとめぼれ」では18%、「ササニシキ」では10%、「コシヒカリ」では29%とする。
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

(4) 稻こうじ病

- ・前年に形成され土壌表面に落下した厚壁胞子が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・銅剤による防除は出穂 20～10 日前が散布適期である。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

(5) 斑点米カメムシ類

- ・注意報第3号(7月18日発表)を参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r07yosatsu.html#chuiho>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号—トマト—	令和7年7月18日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------	--------------------------

—8月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月11、14日

天候予報:仙台管区气象台7月17日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/ +)、発病株率は平年並であった。(/ ±)
(2) 気温 25～30℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
葉かび病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発病は確認されなかった。(/ ±)
(2) 気温 20～25℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生花率は平年より高かった。(/ +)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/ +)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/ -)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。

- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)葉かび病・すすかび病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重きをおく
- ・葉かび病とすすかび病の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに登録のある農薬を散布する。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は 10 日以上、すすかび病は2週間以上と潜伏期間が長く、発生を確認した時にはすでに他の株にも潜在感染している可能性があるため、見つけ次第速やかに防除を実施する。
- ・樹勢が低下すると多発しやすくなるので、適切な肥培管理に努める。

(3)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃で約 14 日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(4)コナジラミ類

- ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するので注意する。また、黄化葉巻病が発生した場合は、栽培終了後に施設を密閉し、ウイルスの媒介虫を死滅させる。
- ・主に葉裏に寄生し吸汁加害するので、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。

(5)トマトキバガ

- ・トマトキバガによる葉や果実への被害が県内のトマトほ場で確認されているため、ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除に努める。

農薬危害防止運動施中！

宮城県では、6月1日から8月 31 日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号ーなすー	令和7年7月 18 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	-------------	----------------------------

ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 11、14 日

天候予報:仙台管区気象台7月 17 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は低かった。(/ー)
- (2) 気温 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生花率は平年より高かった。(/+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺やほ場内の雑草は害虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- ・植物体の過繁茂は病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してから防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。

- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

- ・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に異なる系統のローテーション散布を行う。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

(3)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃で約 14 日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(4)コナジラミ類

- ・主に葉裏に寄生し吸汁加害するので、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。

(5)ハダニ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃で約 10 日程度と短いため、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号ー秋冬ねぎー	令和7年7月 18 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	----------------------------

ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月9日～14日

天候予報:仙台管区气象台7月17日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年より低かった。(/ー)
(2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、発病度は平年並だった。(/±)
(2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、発病度は平年並だった。(/±)
(2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予報されている。
(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
(2)高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害度は平年より高かった。(/+)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年並だった。(/ ±)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ ± ~ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 少なくなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・いずれの病害虫也多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- ・多湿(降雨、滞水)により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では明きよを設けるなど、排水対策を行う。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) シロイチモジヨトウ

- ・注意報第2号を参照：
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/chuiho2negishiroichimojiyoto.pdf>

(4) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

1. 農薬容器のラベルをよく読みましょう
2. 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
3. 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
4. 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号 ーきく(露地)ー	令和7年7月18日発行 宮城県病虫害防除所
-----------------	-------------------------	--------------------------

ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月10日、14日

天候予報:仙台管区气象台7月17日発表

1 発生予報

病虫害名	発生時期	発生量
白さび病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。(/ー)
(2)20℃以下の低温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ー)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ー～±)

病虫害名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年より高かった。(/+)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病虫害名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年並だった。(/±)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病虫害名	発生時期	発生量
カスミカメムシ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、被害は確認されなかった。(/ー)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

病虫害名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。
(/ー)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量・・・(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒して防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤防除後に効果の低下が疑われる場合、薬剤抵抗性が発達している可能性があるため、別系統の薬剤を散布する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって発生が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、葉裏も含め十分量の薬液をむらなく散布する。

(3) アザミウマ類、アブラムシ類、カスミカメムシ類、ハダニ類

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類の発生源となるので、除草に努める。
- ・ウイルス病は、アザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

1. 農薬容器のラベルをよく読みましょう
2. 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
3. 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
4. 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第6号-作物共通害虫-	令和7年7月18日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	------------------------	--------------------------

ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月10～14日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月17日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、大豆の発生地点率は平年より高く(/ +)、トマト及びなすの被害果率は平年並であった。(/ ±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト、なす)。(/ ±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か少ないと予報されている。(/ ±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、作物、果樹、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめには場を見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》 宮城県病害虫防除所 〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp